令和4年度　社会福祉法人 協愛福祉会
施設自己評価表

（保育理念）
Happy+Natural
Happy+challenge

（保育目標）
げんきな子　やさしい子
がんばる子　ゆたかな子

A：よくできている　　B：わりとできている
C：一部改善が必要　　D：改善しなければならない

	内容	前年評価	今年評価	現状・課題
保育目標について	(1)保育士一人一人が、協愛福祉会の保育理念、保育目標を理解している	B	B	保育理念や保育目標の浸透はできつつあるが、その理解には個人差がある。主体性を大切にした保育についても個人差があるため、皆が同じ意識、理解のもと子どもと関わり今以上に保育の質を高める必要がある。
	(2)子ども一人一人の主体性を大切にした保育をしている	B	B	
	(3)すべての子どもについて一人一人の存在と、その人種を尊重している	B	A	
保育について	(1)保育計画に基づき、子ども一人一人の発達の姿や興味を把握して、年間計画、月のカリキュラム、週案を立てている	B	B	子ども一人一人の発達の姿や興味を把握し、保育を行っている。気になる子、配慮の必要な子に関しても、専門機関や保護者と連携している。 保育環境の重要性を理解し保育を行っているが、一度設定した環境が長期間そのままになっていたり、行事等により環境構成が後回しになっている状況がある。
	(2)3歳未満児は、現在の姿を理解し、一人一人に保育計画を立てている	B	A	
	(3)素材・用具を適切に使用している	B	B	
	(4)環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫している	B	B	
	(5)職員間で子どもへの理解を深め、お互いの考えを十分に理解したうえで、保育を行っている	B	A	
	(6)1日の流れ（デイリープログラム等）は現行でよい	B	B	
食育について	(1)食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている	B	B	保育士と栄養士が連携し、会議以外でもその都度、食事形態や離乳食、アレルギー児への対応について相談することで、安心安全な給食提供ができている。子どもたちはクッキングを通し、食への関心へ繋がっている
	(2)栄養士、保育士が連携し、会議等で意見を交わしながらより良い給食になるよう努めている	A	B	
	(3)アレルギー疾患等の子どもに対し医師の指導の下、保護者との連携を図り適切な対応を行っている	A	A	
役割分担	(1)職員の仕事や役割が明確であり、それぞれの仕事を責任を持って行っている	B	B	一人ひとり、責任を持って業務にあたっている。 外部研修は主にキャリアアップ研修に参加した
役員構成	(2)危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が整えられている	B	B	
研修	(3)園内外の研修は計画を立て実行している	B	B	

		評価		現状・課題
保護者支援・情報	(1)保護者に対して、丁寧な言葉遣いと、気持ちの良い対応を心掛けている	B	A	保護者に対して、丁寧な言葉遣いと、気持ちの良い対応を行っている。お迎え時の対応でも、その日の出来事をしっかりと伝え連携も取れている。
	(2)保護者に子どもの伸びているところや課題を伝え、連携をとっている	B	A	
	(3)様々な園行事を通して保護者との良好な関係を築こうとしている	B	B	
	(4)園だより、ドキュメンテーション、きっずノート、ホームページ等を通して、保育内容や子どもの姿や保護者への情報を発信している	B	B	
	(5)子どもの個人記録は、個人情報保護法に基づいて管理している	A	A	
	(6)職員に、園内で知り得た事柄に対しての守秘義務を周知徹底している	B	A	

開かれた保育園	(1)小学校と連携し、情報交換をする機会を待つ	B	A	学校によっては学校職員が園を訪問し子どもの様子を見に来られ連携をとる事ができた。他の学校も情報交換会により連携が取れた。 気になる子どもについては、専門機関に相談を行った
	(2)気になる子どもの対応について、外部の専門機関と連携をとりながら対応している	B	B	

子育て支援	(1)地域で子育てをしている親子の交流の場となるように努めている	D	B	園の保護者については、いつでも子どもの心身の発達や育児不安について気軽に相談でき体制を取っている。 協愛テラスやインスタにより園の見学者が増えた。
	(2)子どもの心身の発達や育児不安について気軽に相談できるように努めている	D	B	
	(3)園生活の子どもの様子を地域にも発信している	D	B	

総合的な現状と課題

・昨年の反省やそれぞれの経験を生かし、保育理念、4本柱（協愛福祉会が考える子ども主体を実現する取組み）、クレドをもとに保育を行った。これまでのような職員主導の一斉保育や単発的な保育は改善傾向にあり、子どもたちの興味や関心、成長等に寄添い、大人からさせられる経験ではなく、子ども自らがする経験を大切にしながら保育を行っている。主体性保育の意識はつきはじめているものの、保育の進め方には個人差があるのが現状。今後も主体性保育の確立に向け職員自身も学びを深め全職員が高い意識と知識のもと、常に子どもを中心に、子どもに寄添い、子どもの健やかな成長のため保育の資の向上に努めていくことが必要。次年度は、子どものやりたい気持ちに寄添い、子どもも職員も型にはまらず、いろんなことにチャレンジし続ける保育を目指していきたいと思う。

園　名　　ひがし保育園　　氏名　　川村　隆晶